

「骨折により入院した高齢患者に関する実態調査 - 2次データ解析 - 」の研究協力について

在宅医療学拠点では、公益社団法人地域医療振興協会地域医療研究所で行われております「骨折により入院した高齢患者に関する実態調査 - 2次データ解析 - 」に研究協力をしております。この研究は、骨折と服用薬の関連、及び転倒・骨折による再入院を防ぐためのリハビリテーションに関する実態調査を目的としております。

【対象の方】

台東区立台東病院の回復期リハビリテーション病棟に骨折後のリハビリテーション目的で入院し、平成 25 年以降に退院した方

【研究の意義】

服用薬の実態を知ること、患者さんの今後の転倒リスク軽減につながる可能性があります。また、退院後のリハビリテーションを行う住環境整備に関して実態調査をすることで、転倒・骨折による再入院を防ぐためのより適切な提案ができるのではないかと考えられます。

【研究の目的】

骨折で入院した患者さんの服用薬と背景因子に関して実態を明らかにします。
回復期リハビリテーション病棟における家屋調査の報告書を分析することで、都市部回復期リハビリテーション病棟退院患者の住環境整備に関する実態を明らかにします。また、家屋調査を行った患者群の属性を示し、家屋調査を行うべき患者像を明らかにします。

【研究の方法】

この研究は、厚生労働省の「疫学研究に関する倫理指針」を守り、倫理委員会の承認のうえ実施されます。これまでの診療でカルテに記録されている内服薬や併存症、身体的機能の評価などのデータを収集して行う研究です。特に患者さんに新たにご負担いただくことはありません。

この研究のためにご自分のデータを使用してほしくない場合は主治医にお伝えいただくか、下記の研究担当者までご連絡をいただいております。

研究結果は、個人が特定出来ない形式で学会等で発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後 5 年間保存されます。

平成 27 年 4 月

【研究機関名】

公益社団法人地域医療振興協会 地域医療研究所
研究協力機関：東京大学医学部附属病院

【問い合わせ連絡先】

担当：在宅医療学拠点
特任准教授 山中崇
電話：03 - 5800 - 9542